

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200921		
法人名	SOMPOケア株式会社		
事業所名	そんぼの家GH神戸伊川谷		
所在地	兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬838-23		
自己評価作成日	令和4年6月16日	評価結果市町村受理日	令和4年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の状況に合わせた援助に力を入れています。例えば、同じ時間、タイミングで排泄介助を行ったりするのではなく、ご本人様のタイミングに合わせたり、排泄パターンなどの分析しそれぞれの状態に合わせた援助を行うように個々の生活スタイルや希望を聞き取り、少しでもその方らしい生活を送って頂けるよう1日のスケジュールを作成しています。障害を持たれ、ご自身の思うように生活を送ることが難しくなってしまう方に、少しでも障害を持つ前の生活に近づき、その人らしい人生を送って頂く為に必要な事であると考えます。そのために、スタッフへは定期的な研修を通して基本的な考え方や、介護に係る知識・技術を修得できるように取り組みを継続して実施しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広く事業展開する法人が運営する事業所であり、管理運営・研修・職員のサポート体制等が整備されている。利用者支援についても、法人内の関係部署・法人外の関係機関と連携できる体制がある。詳細なアセスメントを定期的に更新し、月2回のユニットカンファレンスで共有・検討し、利用者の個性・現状に即した、「その人らしい生活」が継続できる自立支援に取り組んでいる。システムを活用し、職員が利用者個々の「介護計画」「1日のスケジュール」に沿った支援を行い記録できる仕組みがある。全職員が受講できるeラーニングの研修体制・人事考課制度・介護福祉士50%以上の人員体制等により、職員の資質・専門性の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や詰所などに掲示をし職員が目にする機会を設けている。カンファレンスなどでも継続して周知している。	法人理念をもとに事業所独自の理念と行動指針を作成し、理念の中に地域密着型サービスの意義を盛り込んでいる。理念と行動指針を事務所と各ユニットの詰所に掲示し、共有を図っている。人事考課の目標管理、定期的・随時の個別面談、カンファレンス等を活用し、理念や行動指針の実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において、地域との繋がりが途絶えてしまっている。運営推進会議での参加を促していきながら地域との関りを増やしていく必要がある。	コロナ禍以前は、「高齢者集いの会」・幼稚園や小学校の行事等への参加、ボランティアや中学生のトライやるウィークの受け入れ、訪問衣料販売・訪問理美容の利用等により、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう支援していた。コロナ禍のため通常の交流は休止しているが、幼稚園から芋ほり時に焼き芋、餅つき時に餅が届けられる等、可能な形で交流を継続している。今年度は、地域包括支援センターによる地域行事への参加、幼稚園の行事への参加、トライやるウィークの受け入れ等を再開できるよう、具体的に準備を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍ということもあり地域イベントの中止や取り組みができない状態が続いてしまった。今後の地域貢献に向けた行動を考え状況に合わせて貢献できるようにしていく。		

そんぼの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催を行っている。コロナ禍にて、家族様は参加自粛が続いているが地域包括や、他グループホームの方に参加頂き各取り組みの報告などを行い、意見を頂き運営に反映するよう努めている。	利用者・家族・地域住民代表(民生委員)・地域包括支援センター職員・知見者(他事業所管理者)・事業所からの参加者を構成委員としている。コロナ禍のため、地域包括支援センター職員・知見者が参加し、2ヶ月に1回開催している。会議では、パワーポイント・資料・写真をもとに、利用者状況・事業所の取り組み・事故・研修・身体拘束廃止委員会等について報告し、質疑応答、意見・情報交換を行っている。議事録を作成し、参加者に郵送している。	運営推進会議の議事録を公開することが望まれます。コロナ禍のため、家族・地域代表の参加を控えているが、議事録の郵送や返信用紙での意見・情報収集等、書面でも参加できる方法を工夫されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方へは定期的に訪問し情報交換を行っている。	運営推進会議や定期的な訪問を通して、地域包括支援センターに事業所の状況や取り組み等を伝え、協力関係が築けるよう取り組んでいる。区役所で開催される西区グループホーム連絡会に参加し、連絡会として市や区と連携している。市からの情報提供や問い合わせに関する回答等を、事業所での感染症対策や運営等に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を定め一時性、非代替性、切迫性がないものについては身体拘束を行わないようにしている。	「身体拘束廃止のための指針」「身体拘束廃止マニュアル」を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に1回開催し、身体拘束の状況や必要の可能性を確認し、必要があれば適正化に向け検討する仕組みがある。(現在までに、事例はない。)委員会の内容は、運営推進会議でも報告している。年間研修計画をもとに、「身体拘束廃止・虐待防止」研修を年2回実施している。研修はeラーニングで実施し、全職員がオンラインで受講し、受講状況を把握できる仕組みがある。ユニットの玄関はナンバー管理しているが、外に出たい意向があれば、事業所前のベンチや近隣の散歩に職員が同行し、閉塞感を感じないように支援している。	委員会の議事録を申し送りファイルで供覧し、回覧印で周知を明確にしてはどうか。

そんぼの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の研修やカンファレンスにて定期的に虐待について学ぶ機会を設けている。また、定期的に管理者が施設内を回り「不適切ケア」が発生していないか観察している。	「虐待防止」についても、「身体拘束廃止」と同様に、マニュアルを整備し、eラーニング研修を実施している。行動指針・管理者の各ユニットのラウンド等により、言葉かけや対応について注意喚起を行い、不適切ケアの未然防止に努めている。管理者が、日々のラウンドで話しやすい関係づくりに努め、定期的・随時に個別面談を行い、また、法人がストレスチェックを実施し、各種相談窓口を設置する等、職員のストレスがケアに影響しないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修の際に権利擁護について学び、スタッフに伝えることを繰り返している。	成年後見制度を活用している利用者があり、金銭管理に関する書類の提供・身体状況等の報告・面談対応等、事業所として制度利用を支援している。今後も、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が法人や関係機関と連携し相談対応することとしている。	権利擁護に関する制度について、職員全員が一定の知識を習得するため学ぶ機会を設けることが望まれます。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約前にご本人様、ご家族様へ見学にお越しいただくようにしている。ご見学にお越しいただくことが難しい方については管理者が自宅へ伺い、施設の写真を使いながら説明をしている。	本人・家族の見学を勧め、パンフレットや説明用資料に沿って詳細に説明している。見学が困難な場合は、管理者が訪問し、説明用資料と写真を用いて説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・指針・各種同意書に沿って、時間をかけて丁寧な説明に努めている。不明な点を確認し質問に答えながら説明し、不安の解消に努めている。契約内容の改定時には、通知や改定内容の覚書など、内容に応じて文書で同意を得ている。	

そんぼの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様、家族様から頂いた意見、ご要望は管理者へ伝達するようスタッフへ周知している。	利用者の意見・要望は日々のコミュニケーションの中で、家族の意見・要望は面会時（現在は予約制）や電話対応時等に把握に努めている。管理者や計画作成担当者が電話やメールでの報告を頻回に行い、担当職員が写真入りの個別のお便りを毎月郵送し、家族が意見・要望を出しやすいように取り組んでいる。利用者・家族から把握した意見・要望は、利用者別申し送りファイルや介護記録等で共有し、管理者が集約し内容に応じた迅速な対応を行っている。年に1回、法人本部が満足度アンケートを実施し、集計結果を運営やサービス向上に活かすように取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者が職員と面談を行い、困っていることや要望を聞く機会を設けている。職員からで困りごとや要望は検討の上でできることはすぐに実行にうつし、職員にとって働きやすい環境にするよう努めている。	ユニットカンファレンスを月に2回実施し、各ユニットの計画作成担当者と職員が利用者のケアや対応等について情報共有と検討を行っている。参加できない職員の意見・提案も事前に集約し、反映できるよう取り組んでいる。ケアや業務についての日々の検討事項は、管理者が日々のラウンドの中で把握して適宜対応し、利用者別・全体用申し送りファイルで共有している。管理者が年3回の人事考課面談と随時の個人面談を行い、職員の意見を個別に把握する機会を多く設けている。法人本部に各種相談窓口を設置し、職員が直接相談できる仕組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間内に業務を終わらせることのできるよう業務上の困りごとなどの解決を図るようにしている。また、計画作成担当者（リーダー）と協力して職場環境をより良くするための整備を適宜行っている。		

そんぼの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を通して、知識・技術ともに深めていけるようにしている。また、個別面談や日々の業務を見ている中で気になる点は随時管理者や計画作成担当者から助言や教育を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や、西区グループホーム連絡会へ参加し、同業者との情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に、管理者がご入居者様のもとへ伺い困りごとや不安なことなどの聞き取りを行っている。入居後も、計画作成担当者や居室担当者を中心に全体で関わりを持つようにし安心して生活頂けるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、管理者がご家族様へどのような要望があるのか聞き取りを行っている。また、入居後の様子報告をするなど密に連絡をとるようにし、少しでも安心して頂けるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居される経緯をお聞きするようになっている。何に困っているのかなどを確認し、ご本人様の能力を把握するために他職種との連携を行い必要な援助を構築している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	社会的役割の構築を行い、暮らしを共にする者同士の関係性を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご入居者様の状況を報告し関係継続を図っている。また、ご家族様が来訪し、お会いできるように事前に予約して頂くことが前提だがいつでもお越し頂けるよう都度、アナウンスしている。		

そんぼの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴の聞き取りを行い、入居後でも障害を持つ前の生活が出来るよう努めている。家族との繋がりを大切に、家族様との外出のできる取り組みを家族様へもご案内している。	入居時に把握した馴染みの人や場所についての情報は「アセスメントシート」に記録し、入居後に把握した内容は6ヵ月毎の更新の際に追記している。家族・親族・友人との面会（現在は予約制・事務所で）、自宅や墓参り等への家族との外出支援（時期を考慮しながら）等、可能な方法で馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の関係性を普段の生活の中から観察し、把握するようにしている。また、必要に合わせてユニット内の環境を整備することで、孤立せずに生活できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、連絡先をお伺いし、必要時には相談やフォローができることをご家族様へ伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りが可能な方には、直接聞き取りを行いどのような想いを抱かれているのか把握するよう努めている。聞き取りが難しい方には生活歴を元にご家族様へ聞き取りを行い普段の生活の中で実現が出来るようにカンファレンスで検討を行っている。	思いや暮らし方の希望・意向について、入居時に把握した情報は「アセスメントシート」に記録し、介護計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。入居後に把握した内容は、利用者別申し送りファイルやユニットカンファレンスで共有し、内容に応じて、6ヵ月毎の「アセスメントシート」更新の際に追記している。把握が困難な利用者については、表情や行動から汲み取ったり、家族等からの意見を参考にし、利用者の意向に沿った生活が継続できるよう努めている。	

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様のこれまでの生活についてご本人様やご家族様、聞ける方は近親者など身近な方からも聞き取りを行い、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の要望、心身状況などを鑑みて1日のスケジュールも組むようにしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際には、ご本人様とご家族様の要望や主治医、薬剤師など多岐にわたる方々から意見を頂き反映するようにしている。	利用者・家族との面談で得た情報は、生活歴・既往歴・ADL・趣味・嗜好等、各項目ごと詳細にアセスメントシートに記載されており、介護計画作成時のニーズの把握に活かしている。サービス実施記録は介護計画のサービス内容と連動した書式で、介護計画に基づいた記録を残している。月2回のユニットカンファレンスで全利用者の支援内容を検討し、利用者個々の短期目標期間に合わせて3～6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。見直し時にはモニタリングと再アセスメントを行い、担当者会議を開催し、利用者・家族の意向や主治医・薬剤師等関係者の意見を介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、ご本人様の状況や変化など詳細に記載し、カンファレンスで情報共有や検討を行っている。その内容を、ケアプランに反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様へは普段の生活の中で、ご家族様には来訪時やご連絡をさせて頂き、ニーズの確認を行い、施設だけでなくボランティアなどの社会資源なども視野に入れた提案をするなど柔軟な対応ができるよう努めている。		

そんぼの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、地域の取り組みを中止が相次いでいた為、地域資源の活用はできていない。感染状況を踏まえながら、適宜地域資源を活かした行事参加や取り組みができるように今後行っていく。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携を図り、密に連絡をとることで関係性を築き上げていけるように努めている。また、往診の予定日を家族様へ報告し往診後は、内容の報告をご家族様へ報告するよう努めている。	契約時に本人・家族の意向を確認し、希望に沿った受診を支援している。提携医療機関の定期的な内科・歯科の往診や、状況に応じて泌尿器科・皮膚科の往診を受けられる体制がある。他の医療機関の受診が必要な場合は、往診医が紹介状を用意し、家族の通院同行を基本としているが、緊急時や必要時には職員が同行支援している。日々の健康管理は看護師が行い、往診時は主に計画作成担当者が付き添い、受診結果や医師との情報交換の内容は「往診記録」「支援経過」に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で起きた変化や状況を看護師が出勤した際には共有し、必要に応じて主治医と連携はとりながら対応している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で、お見舞いができない状況が続いているので、入院先の相談員の方と定期的に情報交換を行い、入退院がスムーズにできるように努めている。	入院時は医療機関に管理者が同行し、「介護サマリー」で情報提供している。面会に制限があるため、家族・医療連携室とは主に電話で情報交換を行い、早期退院に向け支援している。入院中に把握した情報は、利用者別申し送りファイルと法人システム内で共有している。退院前カンファレンスに参加し、退院時には「看護サマリー」の提供を受け、退院後の適切な支援に活かしている。	

そんぼの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期についての説明を行いその後も敵的に、重度化した場合や終末期についての要望を、ご入居者様やご家族様へ伺うようにしている。また、急変時にも随時確認を行うようにしている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って利用者・家族に説明し、「医療に対する希望・意志確認票」で意向を確認し、「医療・看護体制に係る同意書」で同意を得ている。近年は看取り介護の事例はないが、重度化を迎えた段階で主治医から家族へ状況説明があり、改めて家族の意向を確認し、希望があれば看取りに向けた介護計画を作成し、看取り介護を行う体制が整備されている。年間研修計画をもとに、「看取り介護」のeラーニング研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化したものを各階に掲示し社内研修などでも周知し、学ぶようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	立地条件などから起こり得る災害の予測を行いその災害毎に避難対策を立てている。	年2回防災訓練を昼間・夜間想定で実施しており、令和3年度は8月・3月に実施している事を書面で確認した。感染予防のため利用者は参加せず、管理者と職員が「緊急時対応計画」に沿って避難行動の流れを確認し、「訓練実施記録」を作成している。参加できなかった職員には、「訓練実施記録」の閲覧を促している。年間研修計画をもとに、「防災」のeラーニング研修を実施している。備蓄類は法人が支給・管理し、事業所の倉庫に保管している。	「訓練実施記録」の閲覧に、全体用申し送りファイルを活用してはどうか。

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様はお客様として敬い、居室もご自身の家として対応するようにしている。居室に入る際のノックの徹底を行いプライバシーの侵害が無いように努めている。	事業所の「行動指針」に利用者尊重・丁寧な接遇を掲げ、職員間の共有と実践に取り組んでいる。年間研修計画をもとに、「接遇マナー」「認知症ケア」「コミュニケーション」のeラーニング各研修を実施し意識向上に努めている。管理者が毎日各ユニットをラウンドし、気になる言葉かけや対応があれば、助言や注意喚起している。利用者の写真や映像使用に関して「肖像権使用同意書」で意向確認し、個人ファイルは各ユニットの詰め所で適切に保管する等、プライバシー・個人情報保護を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で選択が必要となった場合ご入居者様に選んで頂けるよう努めている。ケアプランに関しても、ご本人様へ必ず揭示を行うようにしている。要望の聞き取りが難しいご入居者様に対しては、ご家族様へ相談している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた生活の流れを作成し出来る限り実現が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好きな物や、拘りについて把握を行うようにし、日々の生活に取り入れている。また、馴染みのある物を持って来て頂き、状況に合わせて身に着けて頂くようにしている。		

そんぼの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様の好みの把握を行っている。また、残存能力に合わせた食事形態の提供を行い、食べることの楽しみを出来る限り続けて頂けるようにしている。	グループ会社が季節や行事、ご当地メニュー等を取り入れた献立を作成し、調理品が届けられている。各ユニットで炊飯・汁物作りを行い、調理品を温め、配膳して提供している。会社からの定期訪問時に利用者の嗜好や職員の意見を伝え、献立や調理方法に反映させている。利用者個々の状況に応じて軟菜・ソフト食・ムース食の食事形態や、アレルギー・嗜好・病態に応じた代替食にも対応している。食事摂取が困難な場合は、ユニットカンファレンスで検討しながら、栄養補助食やゼリー、好みのものを購入して提供する等、個別の配慮で支援している。感染予防のため制限があるが、後片付け等可能な範囲で参加できるよう支援している。誕生日会にはケーキでお祝いし、季節に応じてうなぎ弁当やスイカ割り企画する等、変化が楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提携の給食業者の栄養士が管理している。1日16kcal程度の摂取ができる食事内容となっており、好みに合わせて代用食などの提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に合わせて、援助を行うようにしている。誤嚥性肺炎を起こす可能性のある方は毎食前後、就寝前に口腔ケアを実施している。異常が見られた際は歯科医へ連絡。定期的に歯科衛生士より口腔ケアに関する指導を受けている。		

そんぼの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の原因を分析し、必要に合わせて専門医の受診や、環境の整備を行い自立に向けた支援を行っている。また、自立の難しい方に関してはアセスメントに基づき定時誘導を実施し、失敗を減らすことのできるよう努めている。	「アセスメントシート」で利用者個々の排泄の自立度やニーズを把握し、介護計画に反映している。「排泄チェック表」「介護記録」に記録し、利用者個々の排泄状況・排泄パターンを把握している。ユニットカンファレンスで支援方法や排泄用品等について検討し、利用者個々の現状に即した支援、また、トイレでの排泄・自立に向けた支援に取り組んでいる。誘導時の声掛け、ドアの開閉、トイレの外での見守り等、プライバシーへの配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の身体状況を把握し、便秘の種類を特定。それぞれの便秘の種類に対して主治医の協力の元、緩下剤の調整を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴に関しては、個々の希望を伺い希望に沿う形で対応している。また、それ以外の入浴に関しては、個々で要望を伺い入浴剤の使用など楽しみとして感じて頂けるよう努めている。	「入浴チェック表」で入浴状況を把握し、体調や意向に応じて柔軟に日時変更しながら、週2回を基本として入浴支援を行っている。広い浴室で、一人ずつ湯を入れ替え、ゆっくり入浴できるよう配慮している。身体状況や意向に応じて、シャワー浴・清拭・同性介助で対応し、また、2階の機械浴を使用できる設備があり、個別に適切な支援を行っている。入浴拒否が強い場合は、ユニットカンファレンスで情報交換しながら、声掛けや対応の工夫を行っている。各種入浴剤を取り入れ、入浴がより楽しめるよう支援している。脱衣所にパーテーションを設置し、プライバシーに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯の時間などは決めておらず、個々で好きなタイミングで休んで頂ける様にしている。ご入居者様の身体状況や体感に合わせて室温調整などを行い、快適な空間になるよう努めている。		

そんぼの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的、副作用、用法、用量については各スタッフが把握できるよう努めている。新しい薬が処方された時は、副作用を確認し注意して観察を行うようにし、変化が見られれば主治医へ報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のこだわりや楽しみについて把握を行い日常生活に取り入れられているようにしている。役割の重要性を職員が理解し、支援するよう努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出については、行先の希望を聞き取り職員だけでなくご家族様の協力を仰ぎ支援している。コロナ禍で外出の頻度は減ったが、希望に応じて随時対応している。	通常の外出支援は困難であるが、日常的には、敷地内のベンチでの外気浴や近隣への散歩で気分転換できるよう支援している。また、状況を考慮しながら、海岸や馴染みの場所へのドライブ外出、家族との外出(自宅やお墓参り等)の支援等、利用者個々の希望に応じて、可能な範囲で外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	アセスメントに則り、自身で管理が可能な方については金銭の持ち込みが出来る環境づくりをしている。ご自身で管理することが難しい方については、家族様に全面的に依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様の要望を聞き取りながら対応している、中には、携帯電話を持ちご家族様へ直接連絡を取られる方もいる。		

そんぼの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は室温、湿度などにも留意するようにしている。換気なども定期的に行っている。トイレや居室なども、わかりやすいようにし不必要な混乱を招かないよう努めている。	木目調で落ち着いた雰囲気のある共用空間は広く、清潔感がある。各ユニットの利用者の動線に配慮したレイアウトで、テーブル席・ソファ・ユニット畳席・大型テレビ等が設置されている。キッチンが併設され生活感があり、可能な利用者は後片付け・洗濯物たため・掃除等の家事に参加できるよう支援している。居室の表札やトイレ表示も大きくわかりやすい。開放的なリビングは、日課の「そんぼ体操」や職員が企画するアクティビティの場としても活用されている。定期的な換気と消毒、テーブル席の対面パーテーションの設置、温湿度計や加湿器の活用等を継続している。	七夕・クリスマス等には行事ごとの飾り付けを行っているが、日常的にも季節感が感じられる環境の工夫が望まれます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見る方、音楽を聴く方など、個々に合わせた生活が送れるようソファやテーブルの設置をしている。個々の要望を聞き取り思い思いの過ごし方をして頂けるよう努めている。	/	/
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときに思い入れのある家具や写真や仏壇など、ご自宅にあったものをお持ち頂けるようご家族様へ依頼し、ご入居者様やご家族様と相談しながら居室環境を整えていくよう努めている。	各居室にはベッド・洗面台・エアコン・カーテンが設置されている。家族の協力を得て、箆箆・テーブル・椅子・テレビ・仏壇・人形等、使い慣れた物・馴染みの物が持ち込まれ、家族や職員との思い出の写真等も掲示されている。利用者個々の身体状況に応じて、衝撃を吸収するタイルカーペットや家具の緩衝材の設置、ベッドの高さ調整、福祉用具の活用、動線に配慮した家具の配置等、安全で自立した生活が継続できる環境整備に努めている。	

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせた目印などを配置し動線の確保や滑りにくく、転倒しても衝撃を吸収してくれる素材の床など自立した生活が送れるよう努めている。		